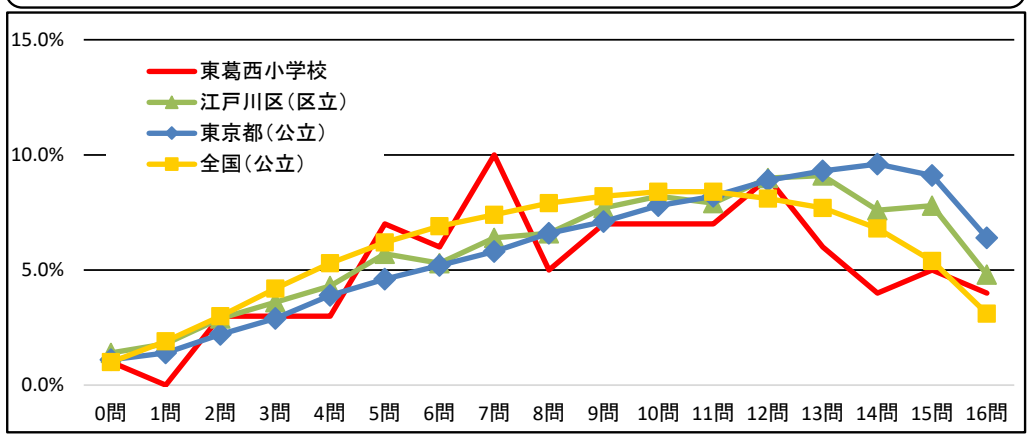
令和8年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【算数】江戸川区立東葛西小学校

正　答　数　分　布

平均正答数

東葛西小学校：9.2問　　江戸川区（区立）：9.6問

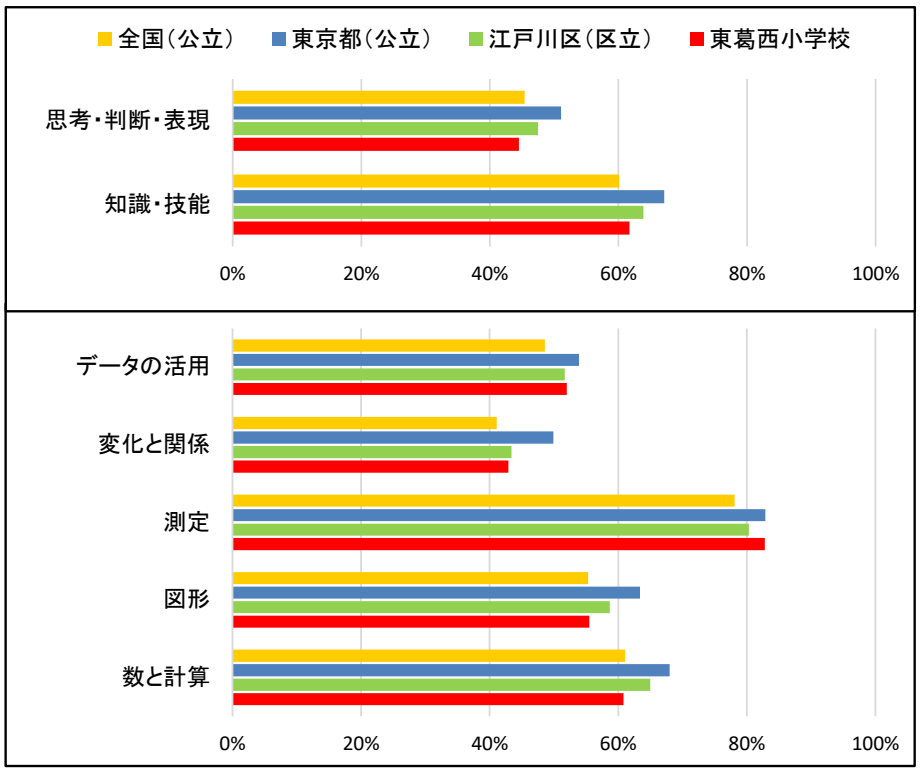
東京都（公立）：10.1問　　全国（公立）：9問



【平均正答率の差】

東葛西小学校	57%
江戸川区（区立）	60%
東京都（公立）	63%
全国（公立）	56.4%
都との差（ポイント）	−6.0

「領域別」の結果

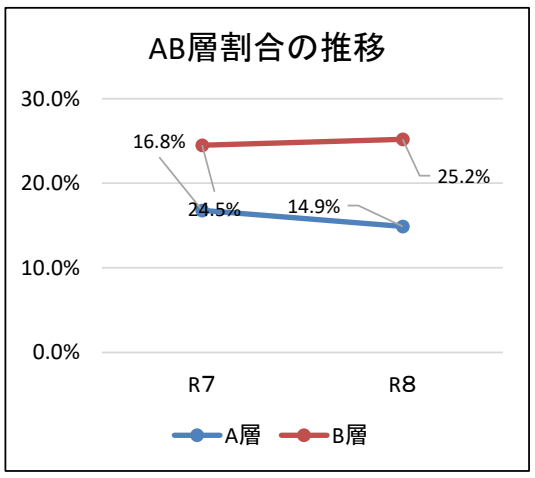


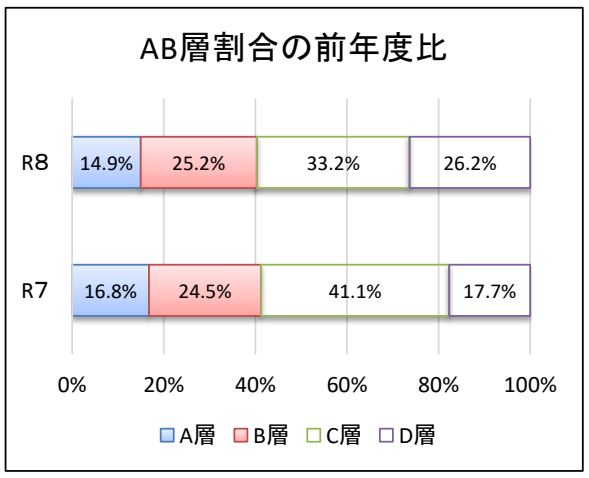
四　分　位　に　お　け　る　割　合　（　都　全　体　の　四　分　位　に　よ　る　）

上位 ◀――――――――――――――――▶ 下位

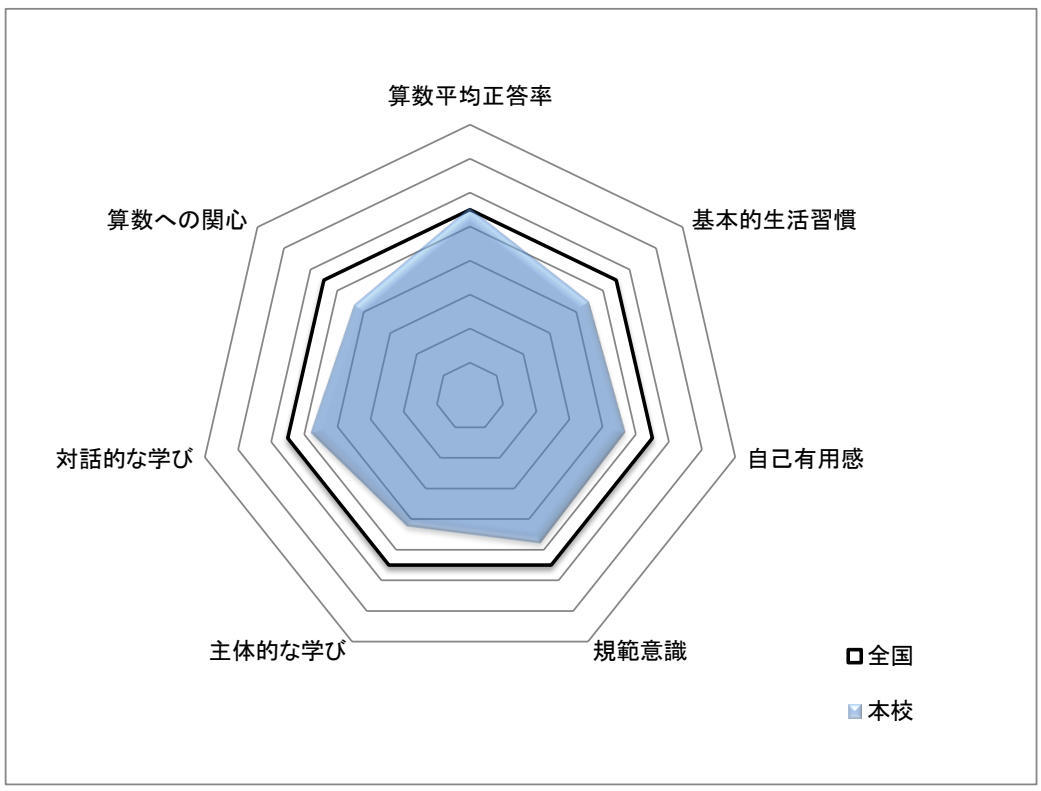
算　数	A層	B層	C層	D層
	14～16問	11～13問	7～10問	0～6問
東葛西小学校	14.9%	25.2%	33.2%	26.2%
江戸川区（区立）	20.2%	26.0%	28.9%	25.0%
東京都（公立）	25.1%	26.4%	27.3%	21.3%
全国（公立）	15.3%	24.2%	31.9%	28.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

●算数への関心
　算数に対しての関心が全国平均に比べて低い。誤答を繰り返すことが苦手意識につながっていると考えられる。学習課題をスモールステップ化し、課題解決の経験を培うことで自信につなげていきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

●学校HPやテトルを通しての情報発信
　学力調査の日程や分析結果を周知している。事前に学力テストの日程や目的を知らせることで、児童の家庭学習の充実につながると考えている。

《現状把握》

●結果分析
　D層が全体の26．2%と多い。解答を分析すると、割合の問題の正答率が約35%、データの活用問題の正答率が約27%であった。複数の数を比較し、分析することが苦手であることが分かる。一方で、小数や分数の計算問題や図形の公式を答える問題の正答率は約70%と高く、基礎学力の定着が見られた。
　今後も、基礎学力の定着を図るとともに、数を整理しながら解く応用問題にも対応できるように指導していく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

●校内研究
　算数科で各学年1回ずつの研究授業を行っている。研究主題を「課題解決に向けて、すすんで学習に取り組む児童の育成」とし、教材研究と授業の実践・改善を行っている。

●算数スタンダード
　江戸川区から提示されている算数スタンダードを基に、児童が主体的に課題解決へ取り組めるような授業設定をしている。

・基礎学力の保障

●朝学習
　週に2回、朝活動で国語科と算数科の学習を行っている。算数科では、数と計算領域のプリントや思考力を育む文章問題に取り組んでいる。

●放課後補習教室
　毎週金曜日の放課後補習教室では、算数科の単元テストの解説や解き直しを行い、基礎学力の定着を目指している。

・学習習慣の確立

●東小スタンダード
　本校では、授業の受け方や持ち物についてルールを決め、共通理解を図っている。

●家庭学習
　各学級で毎日宿題を出し、家庭での学習時間を設けている。また、学期に1回「家庭学習キャンペーン」を設定している。家庭学習キャンペーン中は、学年の目標時間を意識し、質の高い学習ができるように声を掛けている。

・AB層の育成

●発展問題への取組
　教科書の内容に取り組んだ後、応用問題に挑戦したり、条件に合わせて問題を自作したりしている。問題を自作することで、学習したことのアウトプットにつながると考えている。更に、解法の仕組みを理解するために解き方を文章で説明する活動を取り入れ、思考力の向上につなげている。